

平成22年度事業報告

自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日

・展覧会

1. 第38回「日本の書展」直轄展

(1) 関西展

会 期 平成22年5月27日(木)～5月30日(日)

会 場 大阪国際会議場(3階イベントホール)

主 催 (財)全国書美術振興会 産経新聞大阪本社

後 援 文化庁

協 賛 (社)日本書芸院

関西展の出品数は、巨匠13点、代表86点、委嘱36点、招待341点、秀拔選808点、合計1,284点、会期中の入場者数は5,115名だった。

産経新聞社の紙面協力、日本書芸院の協賛も得て、昨年37回展の入場者4,884名に比べ、200名以上の入場者数増となった。

会期初日の5月27日(木)12時30分から、リーガロイヤルホテル3階「光琳の間」において開催披露レセプションを行ったが、来賓・出品者・招待者合わせて510名の出席、こちらも入場者数同様、昨年の出席者463名に比べて50名近く増え、「日本の書展」立ち上げ展覧会のレセプションに相応しい盛大な会となった。

レセプションでは、当会津金孝邦理事長から主催者代表挨拶、産経新聞大阪本社事業局長 浜見良樹氏から共催者挨拶があった後、文化功労者・高木聖鶴名誉顧問の書家代表挨拶へと続き、尾崎邑鵬顧問の発声により乾杯を行い、祝宴に入り、14時に終了した。

(2) 中部展

第1会場

会 期 平成22年6月1日(火)～6月6日(日)

会 場 愛知県美術館ギャラリー(愛知芸術文化センター8階)

第2会場

会 期 平成22年6月1日(火)～6月6日(日)

会 場 名古屋市博物館(3階ギャラリー)

主 催 (財)全国書美術振興会 中日新聞社

後 援 文化庁 愛知県 岐阜県 三重県 名古屋市 各県市教育委員会
東海テレビ放送

協 賛 (社)中部日本書道会

中部展の出品数は、巨匠13点、代表86点、委嘱12点、招待140点、秀抜選695点、合計946点、会期中の入場者数は2会場合わせて6,816名だった。

昨年37回展の入場者6,254名に比べ、550名以上もの入場者数増となったが、これは中日新聞社の紙面協力ならびに東海テレビ放送の放映協力が大きいと思われる。

35回展からの展示数の大幅な増加により、今展も愛知県美術館ギャラリーと名古屋市博物館の2会場開催としたが、これもすっかり定着し、1日で両会場を観覧する入場者も多く見受けられた。

6月1日(火)18時から、名古屋東急ホテル3階ヴェルサイユの間において、開催披露レセプションを行ったが、来賓・出品者合わせて380名の出席があった。

レセプションでは、当会津金孝邦理事長から主催者代表挨拶、中日新聞社取締役顧問 小山勇氏から共催者挨拶があった後、当会の黒野清宇顧問の書家代表挨拶へと続き、樽本樹邨理事の発声により乾杯を行い、祝宴に入り、19時30分に終了した。

(3)東京展

会 期 平成22年6月10日(木)～6月20日(日) 15日(火)は休館日

会 場 国立新美術館

主 催 (財)全国書美術振興会 (株)共同通信社

後 援 文化庁

東京展の出品数は、巨匠13点、代表86点、委嘱34点、招待520点、秀抜選1,025点、東京展合計1,678点、他展の委嘱(関西展委嘱36点・中部展委嘱12点・九州展委嘱11点)も加わり、総展示数1,737点で当会としては最大の展示数である。会期中の入場者は12,794名で、昨年よりも1,500名以上、一昨年よりもわずかではあるが入場者数は増えている。

6月10日(木)12時30分から、ホテルオークラ東京本館1階「平安の間」において開催披露レセプションを行ったが、来賓・出品者・招待者合わせて606名の出席があった。レセプションでは、当会津金孝邦理事長から主催者代表挨拶、(株)共同通信社代表取締役専務 坂田茂氏から共催者挨拶があった後、文化庁文化部長 清木孝悦氏から来賓代表の挨拶を頂いた。続いて、当会の梅原清山顧問の書家代表挨拶へと続き、外務省大臣官房官房長 木寺昌人氏が福山哲郎官房副長官(前外務副大臣)のメッセージを代読後、乾杯の発声をして祝宴に入り、14時20分に終了した。

(4)九州展

会 期 平成22年7月27日(火)～8月1日(日)

会 場 福岡市美術館

主 催 (財)全国書美術振興会 西日本新聞社

後 援 文化庁

九州展の出品数は、巨匠13点、代表86点、委嘱11点、招待120点、秀抜選286点、合計516点。西日本新聞社の紙面協力を得ている。

昨年まで福岡県立美術館を使用していたが、展示可能数が350点前後であったため、その前後で出品数の調整をしていた。しかし今回は日展でも使用している大濠公園内の

福岡市美術館 2 階特別展示室 A・B を借用することができ、500 点を上回る作品を一堂に展示することができた。

会期中の入場者は 2,943 名、福岡県立美術館の時に比べ、1000～1500 名程度入場者数も増えた。

7 月 31 日（土）12 時 30 分から、ホテル日航福岡 3 階「都久志の間」において、開催披露レセプションを行ったが、来賓・出品者合わせて 165 名の出席があった。

レセプションでは、当会津金孝邦理事長から主催者代表挨拶、西日本新聞社常務取締役営業本部長 樋谷忠貢氏から共催者挨拶があった後、当会の師村妙石参事の書家代表挨拶へと続き、松清秀仙評議員の発声により乾杯を行い、祝宴に入り、14 時に終了した。

会場の福岡市美術館は継続して確保することが難しく、今年の 39 回展は博多区川端の福岡アジア美術館で開催する。

全展共通の試みとして、入場者数や客層を広げるため、現代書壇巨匠の出品作品をはがきにして来場記念品として 1 枚ずつ贈呈しており、今展も行った。

合計贈呈枚数は 17,035 枚。

2. 第 38 回「日本の書展」巡回展

現代書壇巨匠と現代書壇代表の 99 点については、関西展、中部展、東京展、九州展の直轄 4 展終了後、本会・共同通信社・各地元新聞社の共催、文化庁後援により、約 1 年間をかけて、地方 8 カ所を巡回した。最終会場を予定していた茨城は東日本大震災の影響で中止となった。

第 38 回「日本の書展」巡回展 実施会場一覧

| | 開催地 | 地元主催新聞社 | 会場 | 会期 | 地元作品数 | 入場者数 |
|---|---------|----------|-----------------------|----------------|-------|--------|
| 1 | 富山 富山市 | 北日本新聞社 | 富山県民会館美術館 | 22.7.9～7.12 | 198 | 1,802 |
| 2 | 鳥取 米子市 | 山陰中央新報社 | 米子市美術館 | 22.8.20～8.23 | 300 | 973 |
| 3 | 栃木 宇都宮市 | 下野新聞社 | 福田屋ショッピングモール宇都宮イタパルク店 | 22.9.1～9.6 | 321 | 4,231 |
| 4 | 青森 青森市 | 東奥日報社 | 青森市民美術展示館 | 22.9.9～9.13 | 251 | 1,442 |
| 5 | 広島 広島市 | 中国新聞企画開発 | 福屋広島駅前店 | 22.9.30～10.5 | 698 | 24,609 |
| 6 | 岡山 岡山市 | 山陽新聞社 | 天満屋岡山店 6 階葦川会館 | 22.10.20～10.25 | 594 | 4,642 |
| 7 | 奈良 奈良市 | 奈良新聞社 | 奈良県文化会館 | 23.2.2～2.6 | 245 | 3,212 |
| 8 | 長野 長野市 | 信濃毎日新聞社 | 長野県信濃美術館 | 23.3.11～3.14 | 228 | 1,039 |

3. 東大寺に大般涅槃経三巻を奉納

平成 22 年 9 月 6 日、東大寺二月堂に「大般涅槃経」の一部、三巻を奉納し、法要が執り行われた。「大般涅槃経」三巻は一色白泉評議員の奉写による。法要は北河原公敬東大寺別当が導師を勤め、当会からは津金孝邦理事長、一色白泉評議員、坂本敏史事務局長が参列した。近年、四十巻のうち三巻が欠落していることが明らかになり、その補巻を東大寺昭和納経の縁で奉納した。

・機関誌および書美術に関する出版物等の刊行

1. 図録の制作

| | |
|---------------------------|--------|
| (1) 第38回「日本の書展」巡回展 (直轄展用) | 5,150冊 |
| (2) 第38回「日本の書展」関西展 | 1,530冊 |
| (3) 第38回「日本の書展」中部展 | 1,180冊 |
| (4) 第38回「日本の書展」東京展 | 2,200冊 |
| (5) 第38回「日本の書展」九州展 | 900冊 |
| (6) 第38回「日本の書展」巡回展 (地方展用) | 1,400冊 |

2. 展覧会来場者配布用作品はがきの制作

全展共通の試みとして、現代書壇巨匠の出品作品をはがきにし、記念品交換券を持参した来場者に1枚ずつ配布することによって、入場者数や客層を広げるなどの集客効果を上げた。贈呈枚数は約17,035枚。

3. 機関誌「書美術」の刊行

会報「書美術」第27号を刊行、第39回「日本の書展」出品依頼者、文化庁関係者、外務省関係者、美術館関係者、日本芸術院会員、新聞社等に配布した。
刊行数は5,200枚。

4. ホームページの制作

「日本の書展」開催に合わせて、随時更新している。
<http://shobi.or.jp/>

・書美術功労者の顕彰

文化功労者となられた古谷蒼韻名誉顧問、並びに、日本芸術院賞を受賞された樽本樹邨理事の功労を顕彰し、記念品を贈呈した。

以 上